



## 平成18年度経営診断中間結果

本協会では実施している畜産経営支援指導事業における畜産経営の中間集計結果をとりまとめました。畜種別の概要は以下のとおりです。

### (酪農経営)

経産牛1頭当たり乳量はここ3年間、8,400kg台で安定しているものの、乳房炎対策の遅れている経営が見られるため、生乳中の体細胞数は350千個に増加しています。また、受胎率の低下により分娩間隔が16.2カ月と非常に長くなり、大きな課題となっています。経営面では、初生子牛価格が堅調に推移したものの、販売乳価の低下、購入飼料価格の一層の値上がりにより乳飼比が前年をさらに上回り過去最高となったため、経産牛1頭当たり所得は101千円と前年を41千円下回り、近年では最低の所得となっています。

区分	単位	H15	H16	H17	H18
経産牛規模	頭	32.4	29.9	27.6	29.7
経産牛1頭 当たり産乳量	kg	8,040	8,440	8,434	8,415
経産牛処分率	%	30.5	34.1	27.8	35.0
体細胞数	千個	469	403	341	365
経産牛平均 分娩間隔	月	15.8	15.3	15.4	16.2
乳飼比 (経産牛当り)	%	47.3	47.5	48.1	50.1
経産牛1頭 当たり所得	千円	156	170	142	101

### (肉用牛経営)

肉用牛経営は、米国からの牛肉再輸入停止から、枝肉価格は高値水準で推移。素牛価格と飼料価格はここ数年高値が続いて来ました。このような条件下の経営診断でありましたが、それぞれの種類別中間経営数値は以下のとおりです。

黒毛和種肥育経営では、売上が前年と同額でありましたが、出荷牛素牛費が58千円増加したことにより生産コストが上昇したことで、所得は67千円少なくなりました。一方、乳用種・交雑種は生産コストに変わりありませんでしたが、販売価格が下がったことにより所得が若干少なくなりました。

和牛繁殖経営では、枝肉価格高から子牛の需要が高く、子牛価格の高騰が続きました。最近では、粗飼料自給率が低下するなど生産コストの上昇が見られましたが、所得は大きく増加しています。

### 1 繁殖経営

区分	単位	H15	H16	H17	H18
分娩間隔	カ月	13.2	13.6	12.8	12.3
子牛販売価格	千円	417	478	442	553
自家労賃 控除総原価	千円	293	318	306	346
所得	千円	129	171	126	201

### 2 肥育経営

(単位:千円)

区分	H15	H16	H17	H18	
黒毛和種	販売価格	917	915	1,027	1,027
	自家労賃控除総原価	806	807	986	955
	出荷牛素牛費	360	384	432	490
	所得	121	100	138	71
乳・交雑種	乳用種販売価格	274	340	386	369
	交雑種販売価格	507	560	620	611
	自家労賃控除総原価	397	406	441	443
	出荷牛素牛費	98	104	120	132
	所得	39	106	121	112

### (養豚経営)

繁殖成績は、種豚(♀)1腹当り分娩頭数、離乳頭数ともに前年より増加しており、離乳から受胎までの日数、分娩間隔、年間回転も良くなっていたことから、結果として年間換算離乳豚頭数は22.4頭となり、過去4年間で最高の成績となりました。一方、肥育部門では、事故率が8.4%と増加傾向にあり、畜舎の老朽化が起因する事故、特定の病気により事故が多発している経営も見られました。

費用面では、昨年の豪雪被害による畜舎等の修理・修繕費と光熱費の増加、購入飼料費単価の上昇等が大きく影響してコスト高となっています。枝肉1kg当り総原価の平均は474円となり、前年よりもさらに13円高くなっていました。

今期の場合、枝肉販売単価も前年よりわずかではありますが下降傾向にあったことと、コスト高が影響して、種豚(♀)1頭当り所得は76千円と前年よりも26千円も低くなっていました。

区分	単位	H15	H16	H17	H18
年間換算離乳 豚頭数	頭	21.8	21.2	21.2	22.4
肉豚事故率	%	6.4	6.4	7.8	8.4
枝肉1kg当り 総原価	円	412	422	461	474
種豚(♀)1頭 当り所得	千円	70	143	102	76

## 大家畜畜産経営データベースが 生まれ変わり使いやすくなります

平成13年から県内の酪農経営者や関係機関で利用されている「酪農経営データベース」と平成16年3月末よりスタートした「肉用牛経営データベース」が本年4月からより使いやすいものに生まれ変わります。

大きな変更点は、①これまで閉域通信網のISDN回線で提供していた情報をADSL回線等のインターネットを通じて配信すること、②これまで毎月負担が必要であった通信コストが不要となること、③インターネットを通じて提供されている様々な畜産情報の中から、自分のほしい情報だけを集めた自分専用のページを持つことです。

これらの変更により、これまで利用制限のあった畜産農家、関係機関での利用が可能となり、「使いやすい」「わかりやすい」システムへと大幅に変更されますので、是非、利用頂きたいと思います。

なお、これまでデータベースを利用してきた畜産農家、関係機関については、新たに加入手続きを行う必要はありませんが、新規に加入を希望する方への案内と併せて、後日、確認のための連絡をいたしますのでよろしくをお願いします。

### 1. 新たな大家畜畜産経営データベースの概要

#### (1) シングルサインオン機能の活用

インターネットを利用してデータの提供を行います。ネット上の銀行決裁等で使われている暗号パスワードを利用するため、安全に個々の農家毎に、より適切な情報を別々に提供することができる仕組みを構築します。

この仕組みを活用することにより、これまで提供してきた下記の農家個別のデータ分析と一般的な畜産経営情報がインターネット上で融合され、利用に当たっての利便性が向上します。

#### (2) 提供するデータ

- ・牛群検定データ
- ・家畜個体識別データ
- ・枝肉格付結果データ
- ・経済データ

#### (3) 提供する経営支援ツール

- ・牛群管理プログラム（牛検データ分析用）
- ・肥育農場管理プログラム（肥育データ分析用）
- ・経営分析プログラム
- ・飼養管理分析プログラム

## 新たな 大家畜畜産経営データベースの 仕組み

